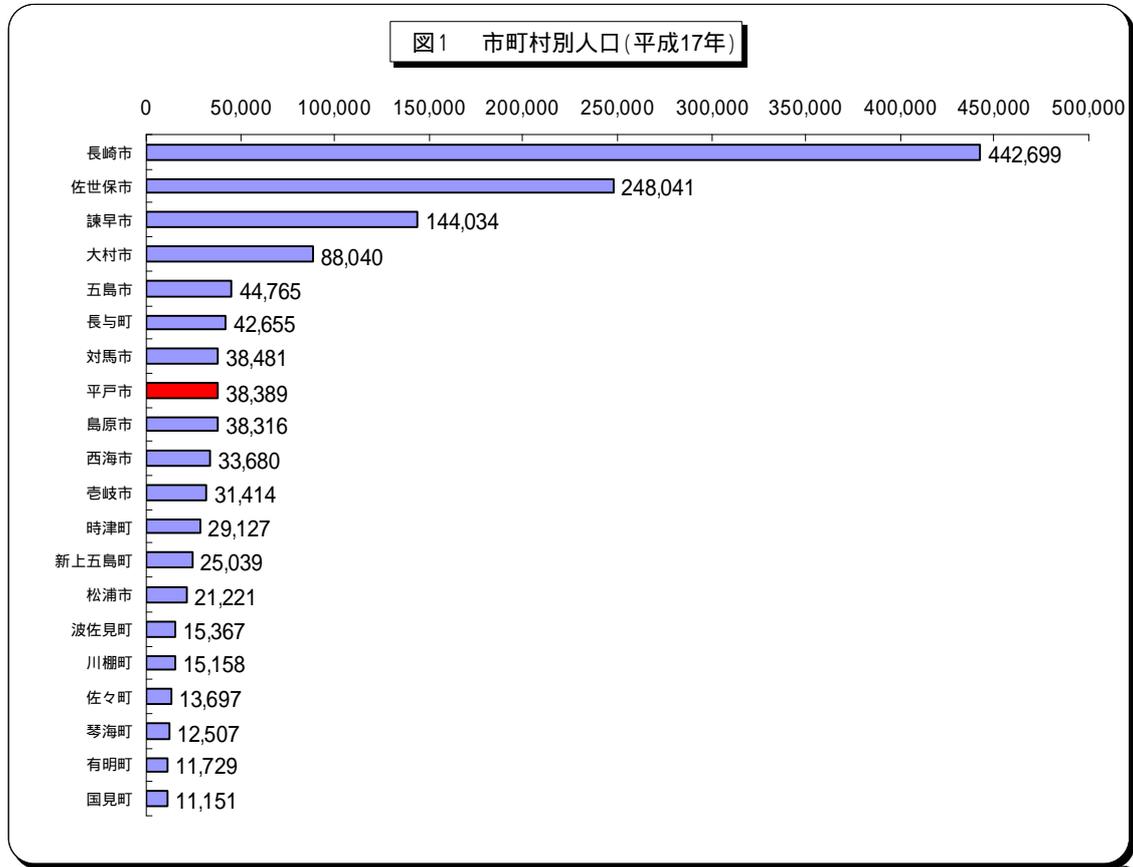
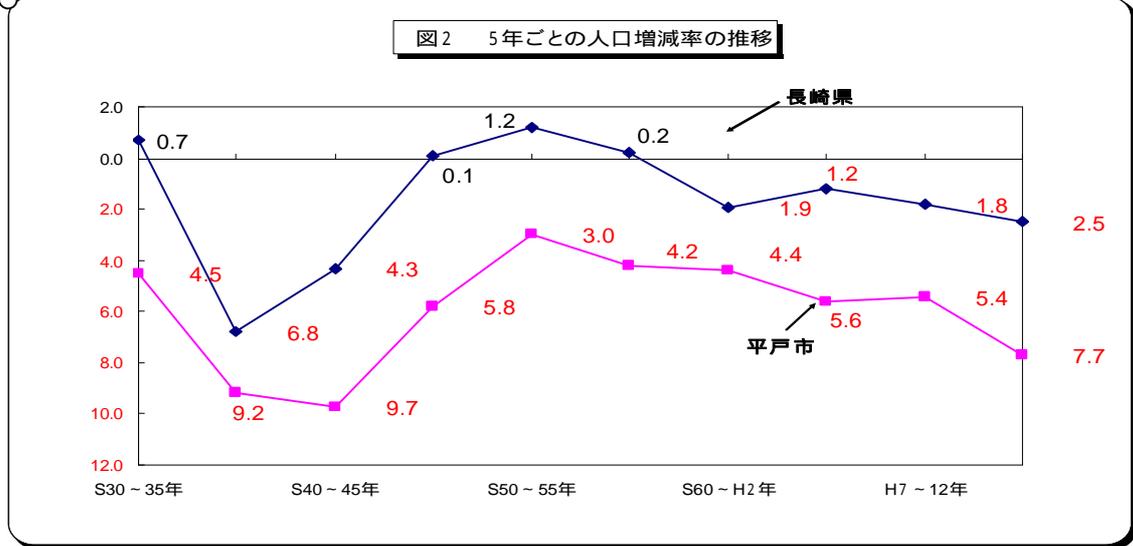


# 1. 人口の規模と推移

平戸市の人口は、38,389人で、その規模は長崎県内42市町村中8位。



平戸市の人口は、平成12年～17年に3,197人、7.7%減少。なおこの間の全国の人口は、0.7%の増加。長崎県の人口は、2.5%減少。

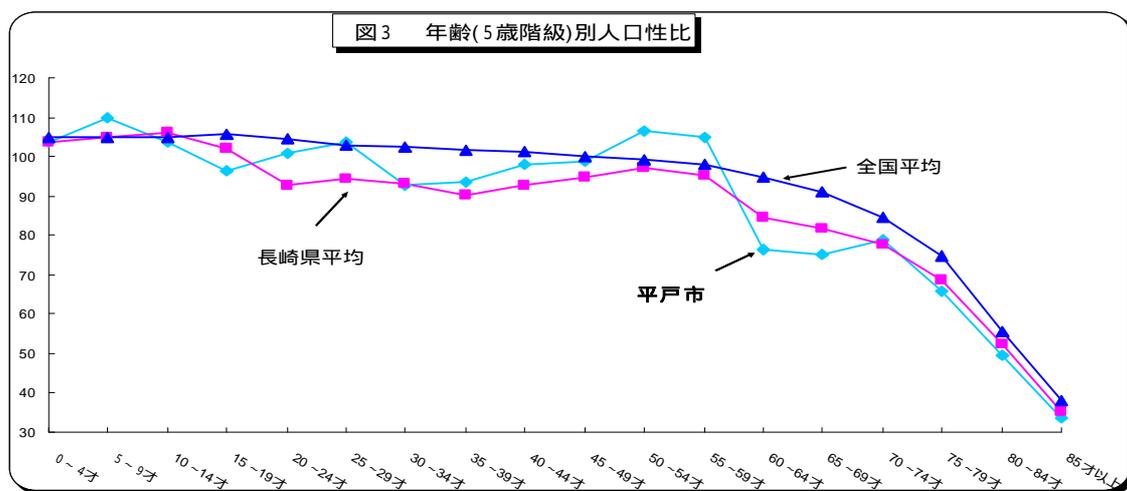


## 2. 人口の基本的・社会的属性

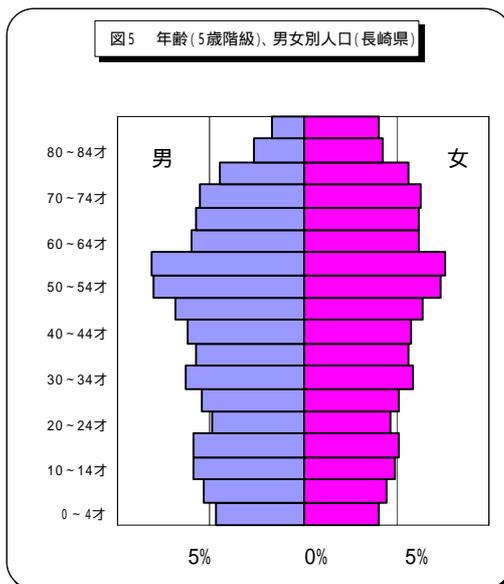
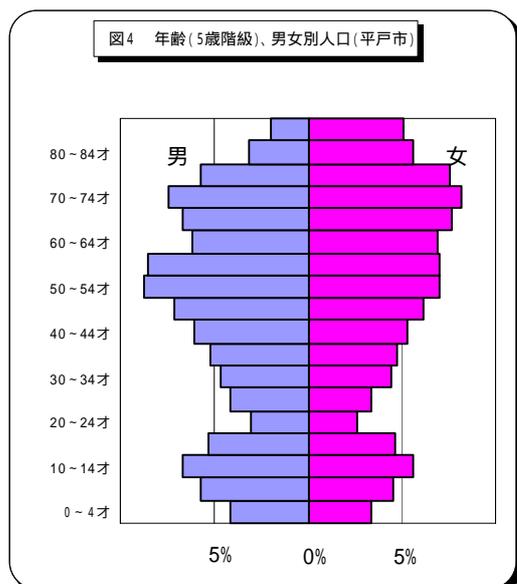
### 2-1 男女、年齢別人口

平戸市の人口を男女別にみると、男子が 17,826 人、女子が 20,563 人で女子が多く、人口性比（女子 100 人に対する男子の数）は 86.7、全国の人口性比 95.1、長崎県の人口性比 87.8 を下回る。

年齢階級別にみると、50代は高いが全般的に全国平均より低く、特に60歳から69歳は突出して低く戦後の出生減によるものと考えられる

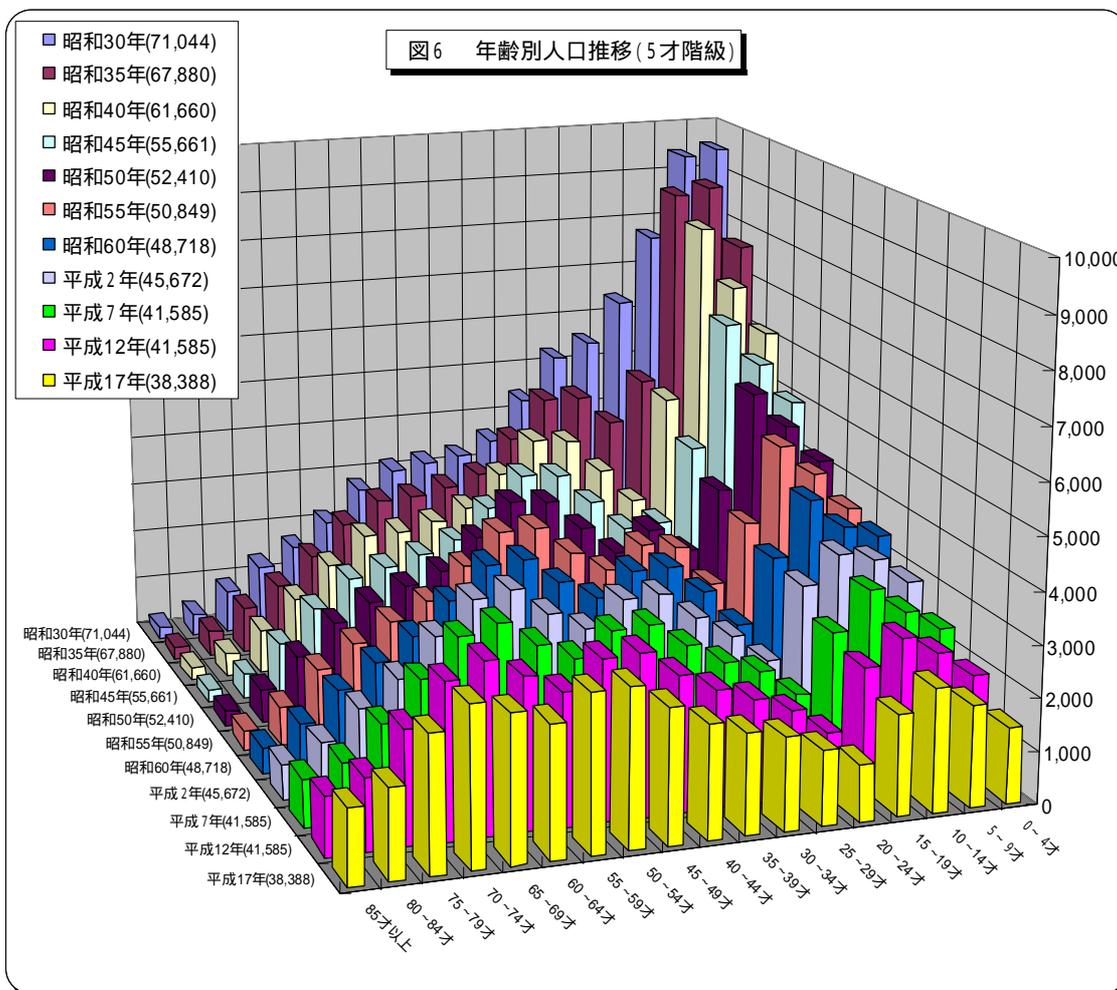


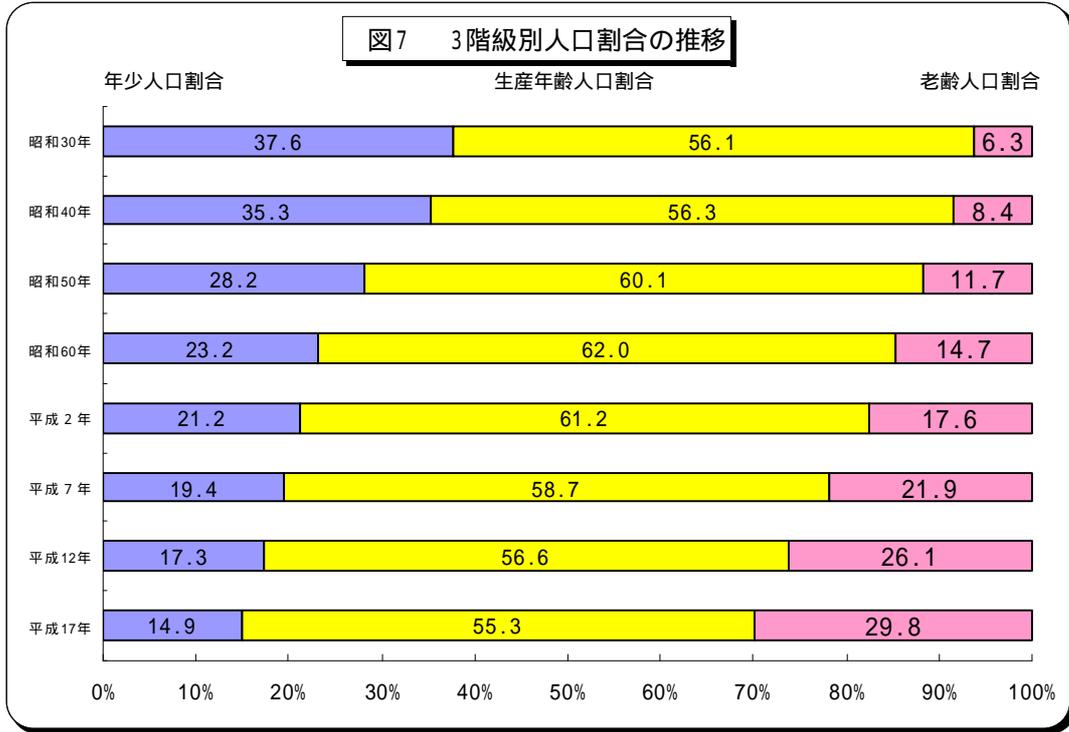
平戸市の人口を年齢(5歳階級)別、男女別にみると、20歳から24歳の人口が極端に少なく、頭でっかちのグラフとなっている。



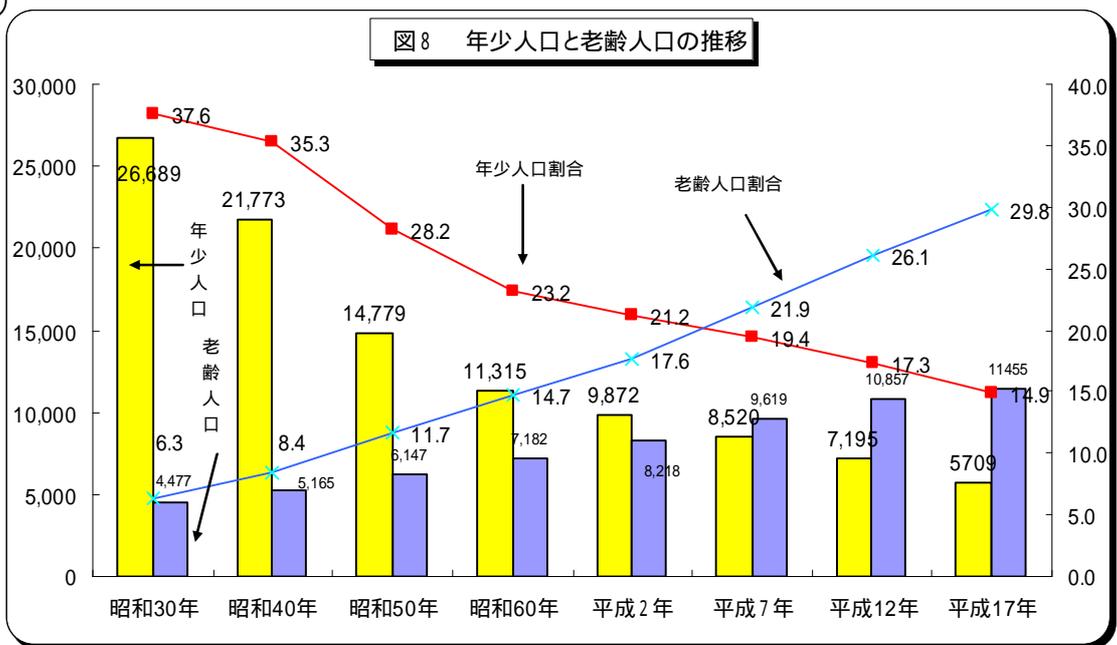
昭和30年からの5歳階級別人口の推移を見てみると、総人口で32,655人の減少となっている。そのうち年少人口（14歳以下）は20,980人の減少、生産年齢人口（15歳～64歳）は18,654人の減少となっているが、老年人口は逆に6,987人の増加となっている。

昭和30年からすると、総人口で46.0%減少しており、前回調査時からも7.7%の減少となっている。その中でも年少人口の減少は著しく、昭和30年の1世帯当たりの子供の数（14歳以下）は2.0人であったが、平成17年は0.4人となり、少子化が急激に進んでいる。





年令3区分別割合は、0～14歳の年少人口が14.9%、15～64歳の生産年齢人口が55.3%、65歳以上の老年人口が29.8%である。全国平均（13.8%、66.1%、20.2%）県平均（14.6%、61.8%、23.6%）に比べ、老年人口及び年少人口の割合が高い。また、推移を見ると、年少人口割合の減少と老年人口割合の増加が続いている。

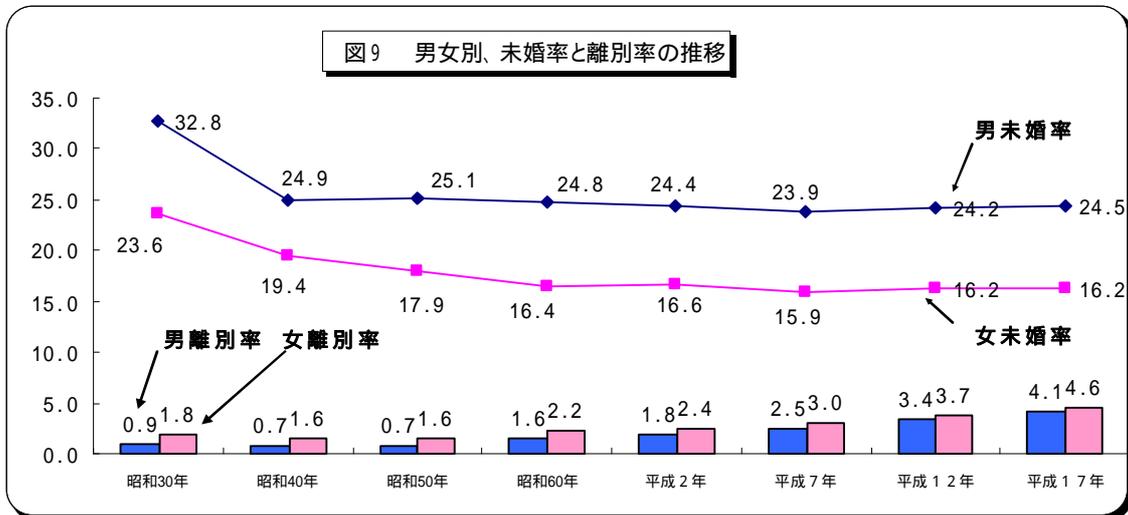


## 2 - 2 配偶関係

未婚率（15歳以上人口のうち未婚の割合）は男子24.5%、女子16.2%で男女とも県平均（男子27.8%、女子21.9%）全国平均（男子31.4%、女子23.2%）を下回る。

未婚率は男女ともほとんどの年齢階層で上昇。特に、男子では30歳から49歳、女子では25歳から34歳の各年齢階層で上昇幅が大きい

離別率（15歳以上人口のうち離別の割合）については、男女とも各年齢階層で上昇している。

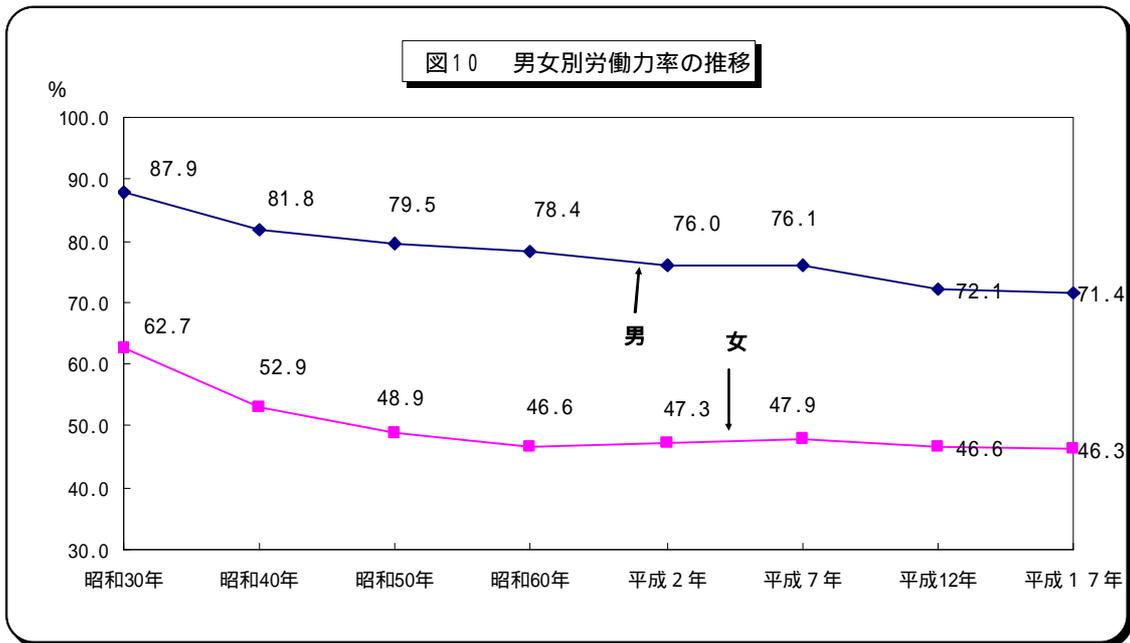


## 3 . 人口の経済的屬性

### 3 - 1 労働力状態

労働力率（15歳以上人口のうち労働力人口（就業者と完全失業者の和）の割合）は、男子71.4%、女子46.3%で、男女とも県平均（男子70.3%、女子46.8%）及び全国平均（男子72.1%、女子47.8%）より下回っている。

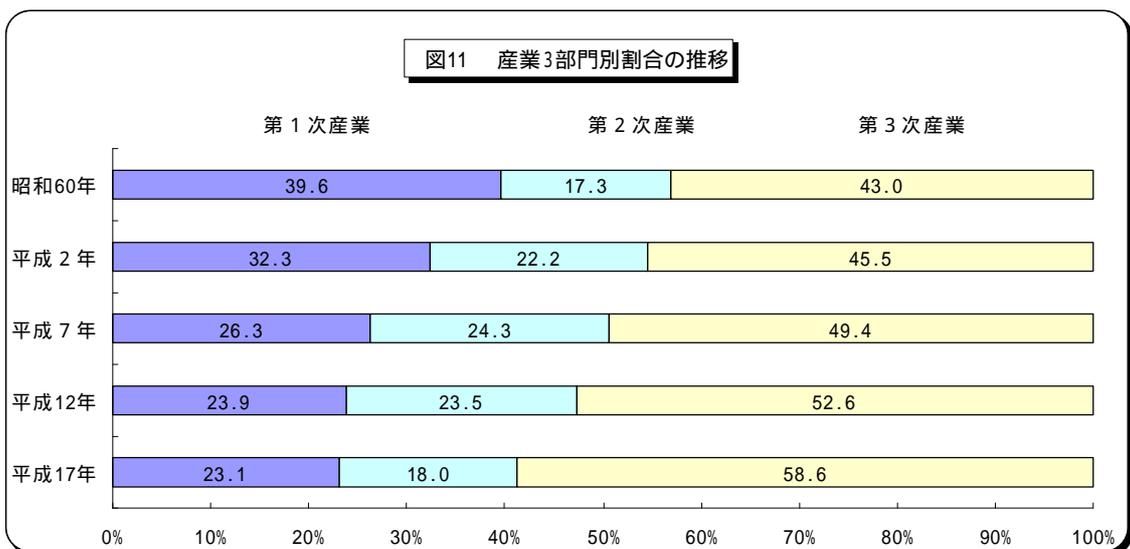
推移を見ると、男女とも昭和30年以降低下を続け、平成2年から平成7年までは、ほぼ横ばい傾向であったが、平成12年の調査にて男子労働力率が前回比4.0%の大幅減となっている。



### 3 - 2 産 業

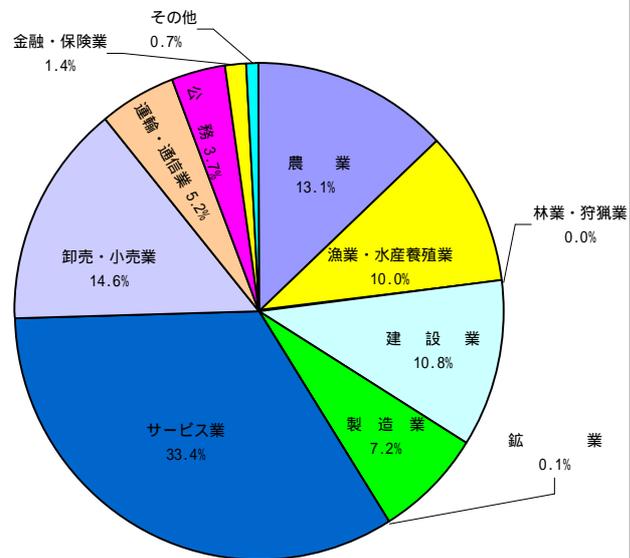
就業者の産業3部門別割合を見ると、第1次産業は23.1%、第2次産業は18.0%、第3次産業は58.6%で県平均（それぞれ9.1%、20.7%、69.7%）及び全国平均（それぞれ4.8%、26.1%、67.2%）に比べ、第1次産業の割合が高く、第3次産業の割合が低い。

推移を見てみると昭和60年調査で39.6%あった第1次産業が平成17年調査では23.1%と半分近くに低下し、第3次産業の割合が突出的な伸びは見られないものの、序々に高くなってきている。



就業者の産業大分類別割合は、「サービス業」が33.4%で最も高く、「卸売・小売業」が14.6%、「農業」が13.1%、「建設業」が10.8%、「漁業」が10.0%と続く。県平均、全国平均に比べ、「農業」(県6.7%、全国4.5%)や、「漁業」(県2.8%、全国0.4%)の割合が高く、「製造業」(市9.4%、県11.9%、全国19.4%)の割合が低い。

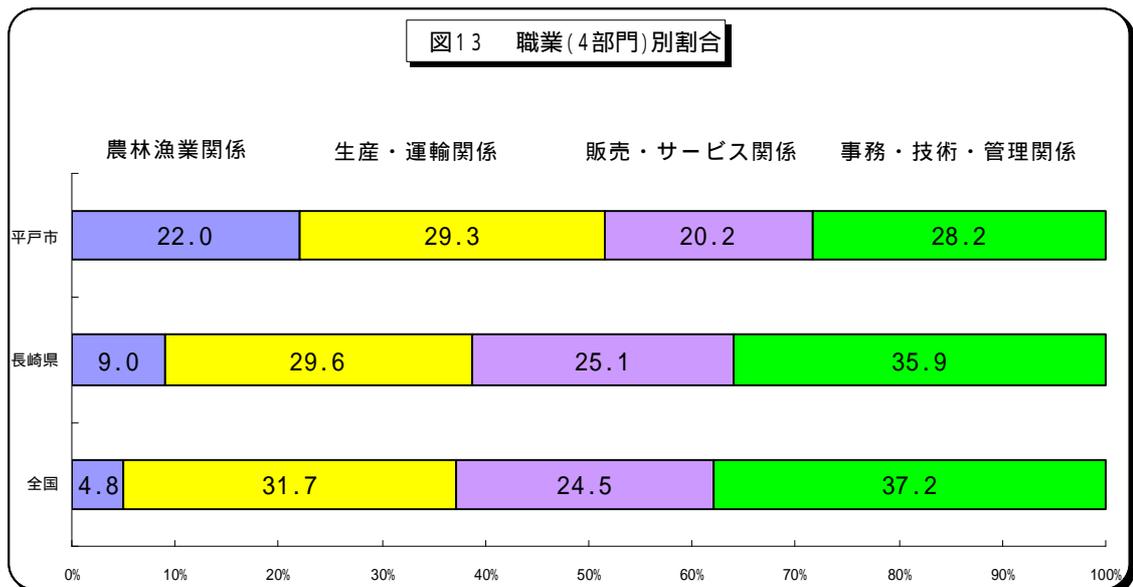
図12 産業別就業人口の割合(17年)

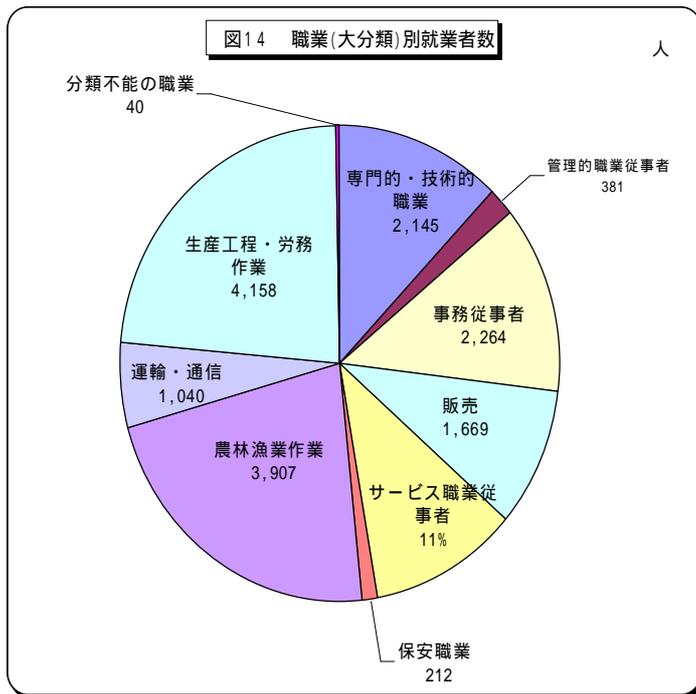


### 3-3 職業

就業者の職業4部門別割合は、農林漁業関係職業が22.0%、生産・運輸関係職業が29.3%、販売・サービス関係職業が20.2%、事務・技術・管理関係職業が28.2%で、全国平均、長崎県平均と比較すると、農林漁業関係職業の割合が高く、事務・技術管理関係職業の割合が極めて低い。

図13 職業(4部門)別割合

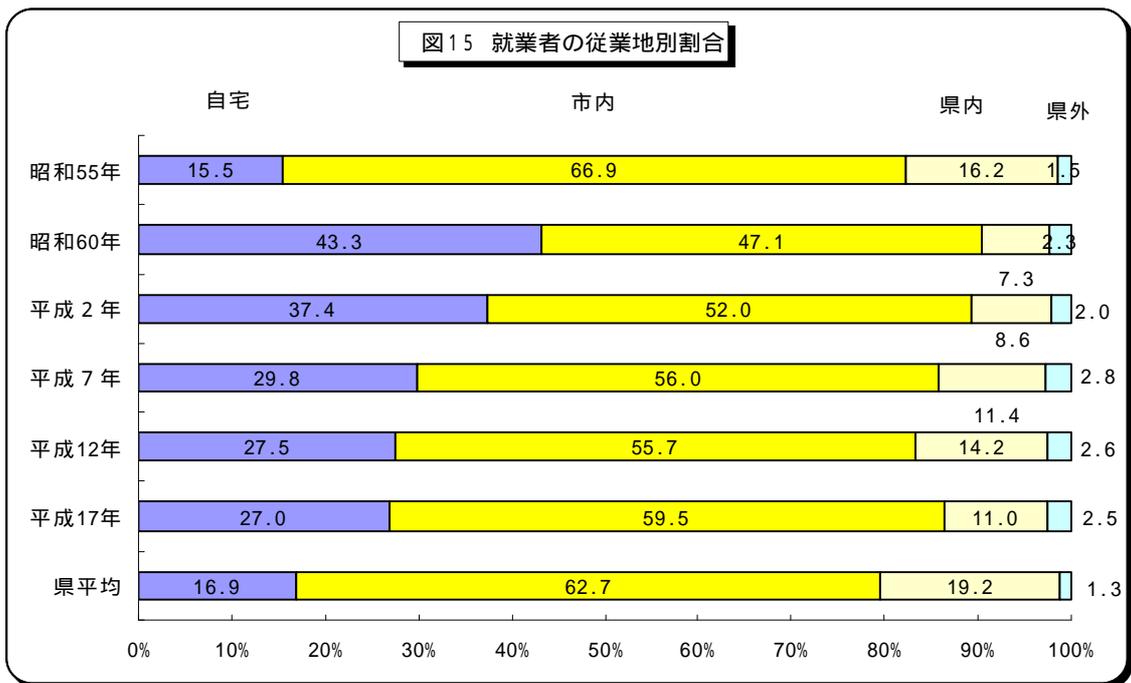




職業大分類別割合をみると、「生産工程・労務作業」の割合が23.5%と最も高く、「農林漁業作業」が22.0%、「事務従事者」が12.8%と続く。全国平均、県平均に比べ「農林漁業作業」(全国4.8%、長崎県9.0%)の割合が高い。

### 3 - 4 就業者の従業地

就業者を従業地別に見ると、自宅が27.5%、市内が59.5%、県内各市町村が11.0%、県外が2.5%であり、県平均と比較すると自宅の割合が高く、県内各市町村の割合が低い。推移を見てみると、自宅就業が減少し、市内就業が増加している。



## 4. 世帯

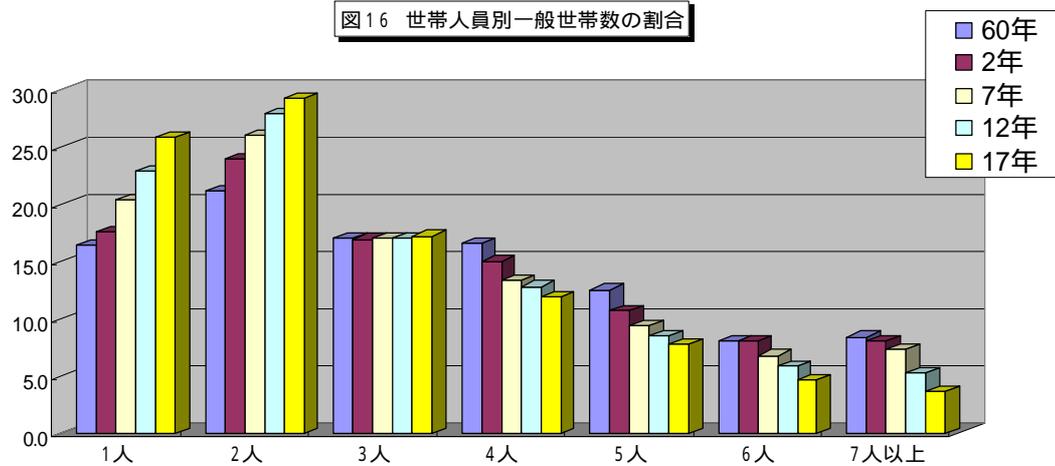
### 4-1 世帯の規模

平戸市における平成17年10月1日現在の一般世帯数は13,501世帯、その世帯人員は37,406人で、1世帯当たり人員は2.77人。世帯規模の縮小傾向は昭和30年以降続いている。

一般世帯の世帯人員別分布は、2人世帯が29.1%で最も多く、1人世帯(25.8%)、3人世帯(17.2%)、4人世帯(11.8%)と続く。

1世帯当たり人員は全国平均(2.55人)、県平均(2.59人)に比べ上回っている。

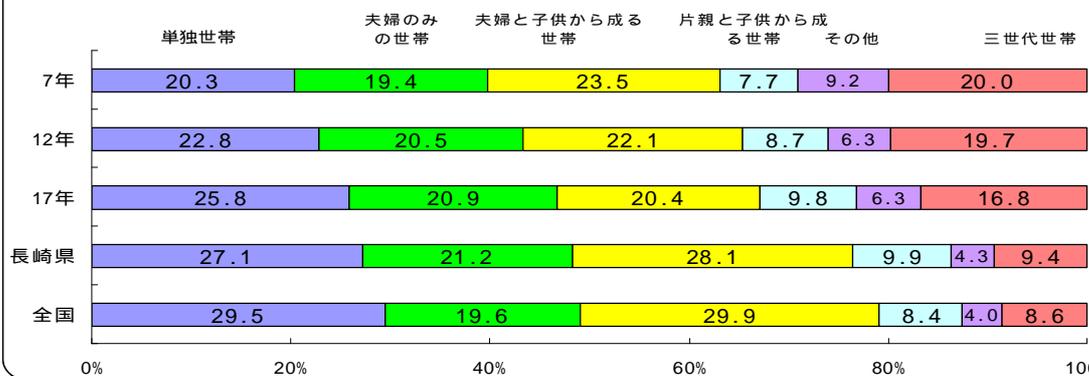
図16 世帯人員別一般世帯数の割合



### 4-2 世帯の構造

一般世帯のうち、「単独世帯」が29.5%、「夫婦のみの世帯」が19.6%、「夫婦と子供から成る世帯」が29.9%、「片親と子供から成る世帯」が8.4%、「三世帯世帯」が8.6%であり、全国・県平均と比べて、「夫婦と子供から成る世帯」が低く、「三世帯世帯」が高い。核家族化が全国、県と比較して、さほど進んでいないということであるが、調査年毎に微弱ながら減少しており、緩やかに核家族化が進捗していることが分かる。

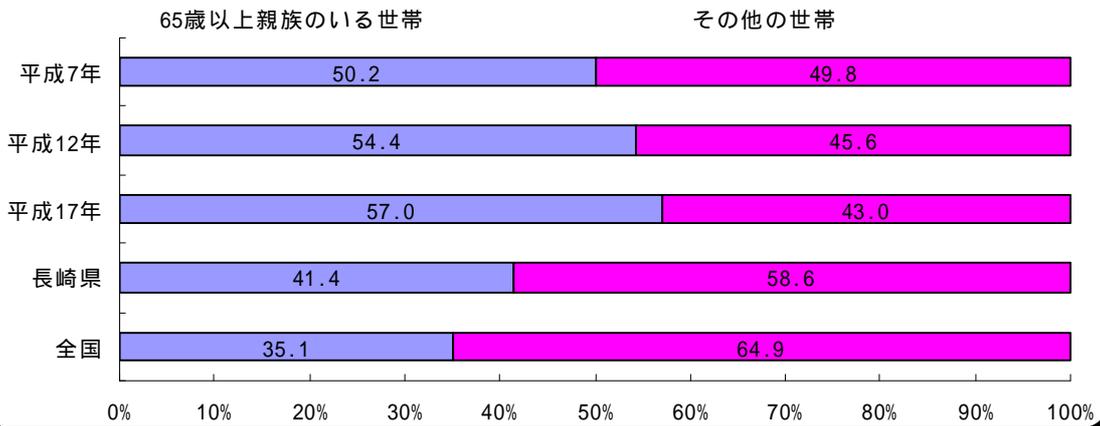
図17 一般世帯の家族類型別割合の推移



### 4 - 3 高齢者のいる世帯

65歳以上親族のいる一般世帯は7,692世帯で一般世帯総数の57.0%を占め、全国平均(35.1%)、県平均(41.4%)を上回り、また、その推移は毎調査ごとに増加している。

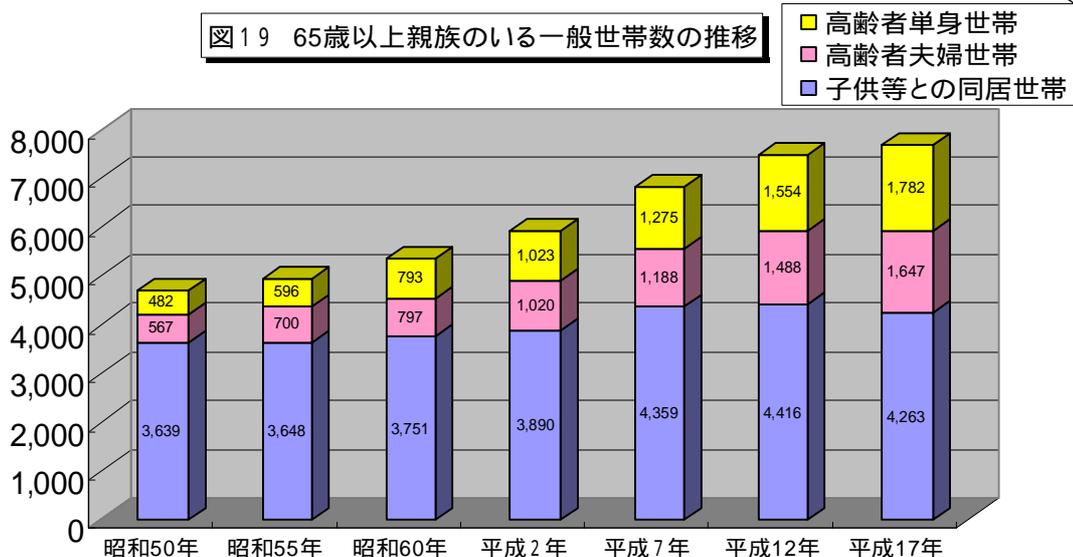
図18 65歳以上親族のいる世帯割合

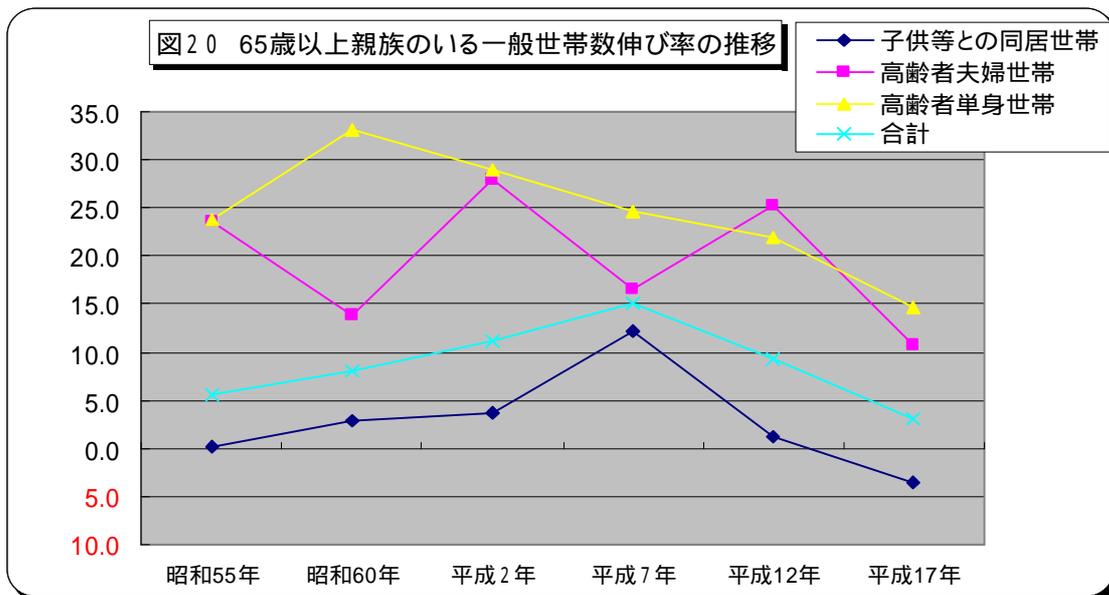


高齢者夫婦世帯(夫65歳以上と妻60歳以上の夫婦1組の一般世帯)は1,647世帯、高齢者単身世帯は1,782世帯。推移を見てみると、高齢者世帯総数は、調査ごとに伸びてきている。

これまで子供等との同居世帯が増加傾向となっていたが、今回の調査で減少しており、伸び率がマイナスに転じている。

図19 65歳以上親族のいる一般世帯数の推移



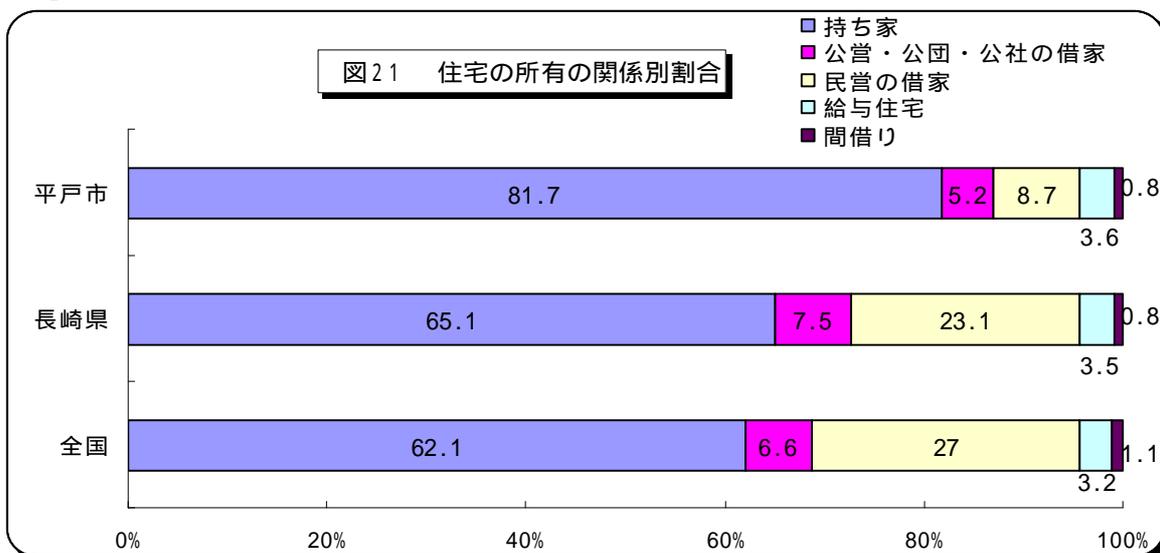


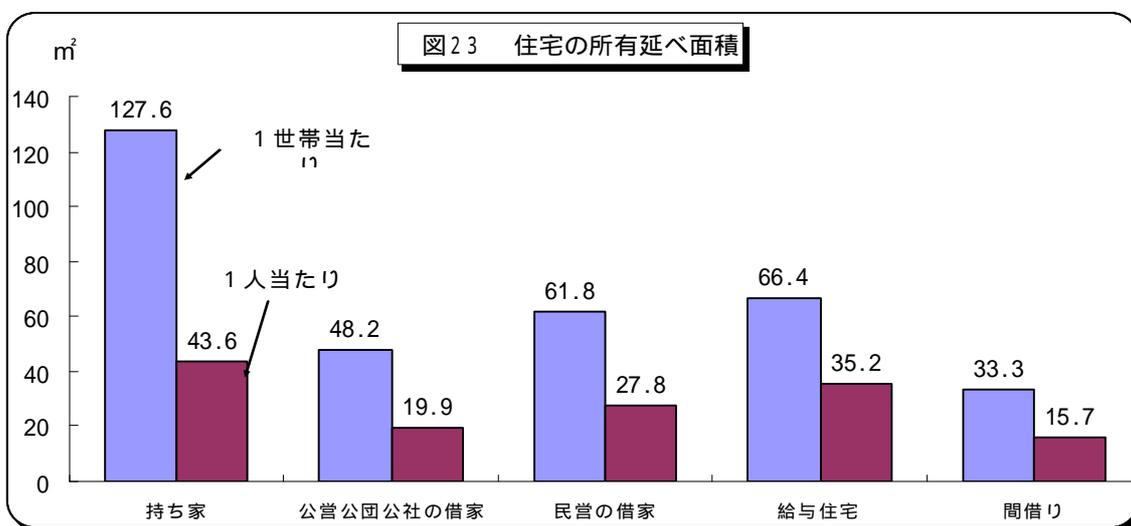
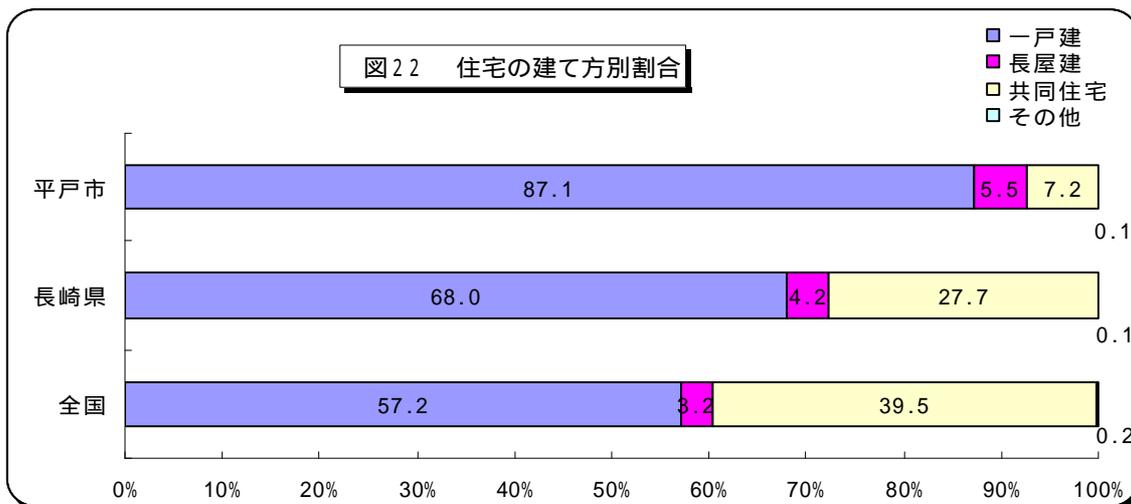
#### 4 - 4 住居

住宅の所有関係別割合は、持ち家 81.7%、公営・公団・公社の借家 5.2%、民営の借家 8.7%、給与住宅 3.6%、間借り 0.8%であり、全国平均、県平均と比べ持ち家に住む世帯の割合が高く、民営の借家の割合が低い。

住宅の建て方別割合は、一戸建 87.1%、長屋建 5.5%、共同住宅 7.2%、その他 0.1%で、県平均、全国平均と比較して、一戸建ての割合が高く、共同住宅の割合が低い。

1世帯当たり延べ面積は 113.9 m<sup>2</sup>で、県平均(95.5 m<sup>2</sup>)、全国平均(91.8 m<sup>2</sup>)より広く、住宅の所有関係別に見ると「持ち家」が 127.6 m<sup>2</sup>で最も広い。

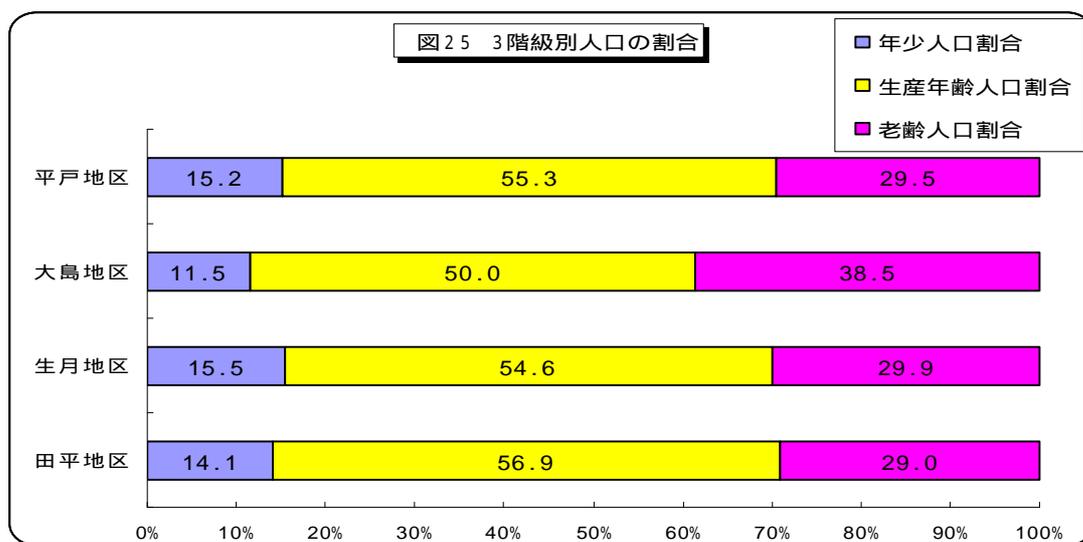
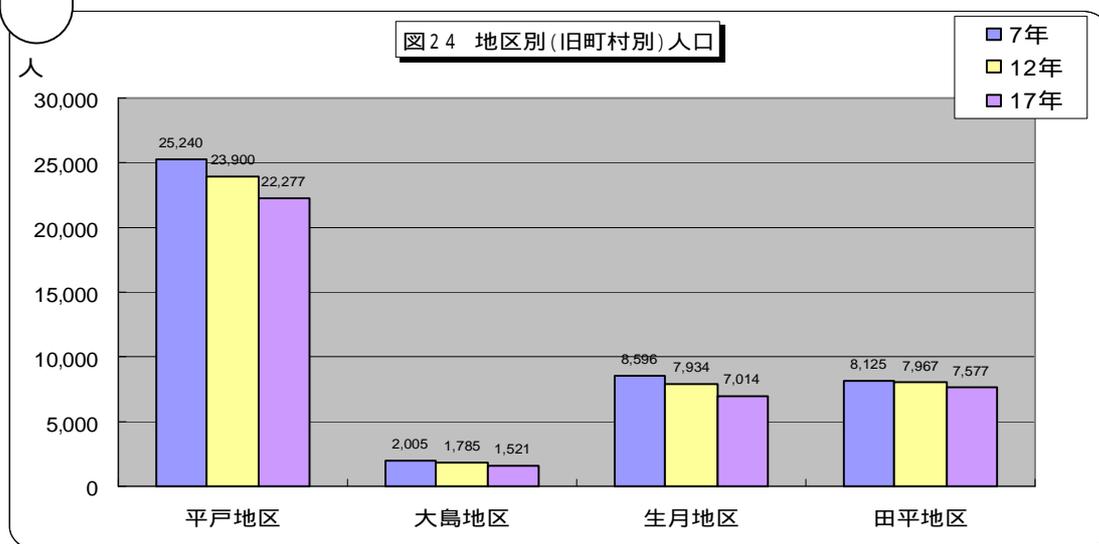




## 5. 地区別（旧市町村別）の状況

### 5 - 1 地区別の人口

- ・ 地区別の人口は、平戸地区が22,277人で最も多く、次いで田平地区（7,576人）生月地区（7,014人）、大島地区（1,521人）となっている。
- ・ 年少（0～14歳）人口割合は、生月地区（15.5%）が最も高く、平戸地区（15.2%）田平（14.1%）と続き、大島地区（11.5%）が最も低くなっている。
- ・ 生産年齢（15～64歳）人口割合は、田平地区（56.9%）が最も高く、平戸地区（55.3%）生月地区（54.6%）と続き、大島地区（50.0%）が最も低くなっている。
- ・ 老齢（65歳以上）人口割合は、大島地区（38.5%）で最も高く、生月地区（29.9%）平戸地区（29.5%）と続き、田平地区（29.0%）が最も低くなっている。



各地区（旧市町村別）の年齢、男女別人口を見ると、どの市町村もひょうたん型となっているが、特に大島地区の増減が激しく、人口全体に占める 20 歳代の男女人口の割合が低く、50～54 才、65～74 才人口の割合が高い。

図 26 - 1 年齢(5歳階級)、男女別人口(平戸市)

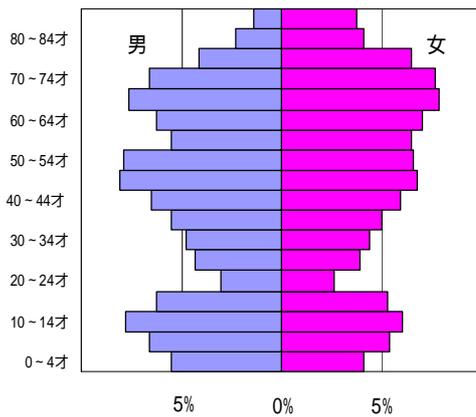


図 26 - 2 年齢(5歳階級)、男女別人口(大島村)

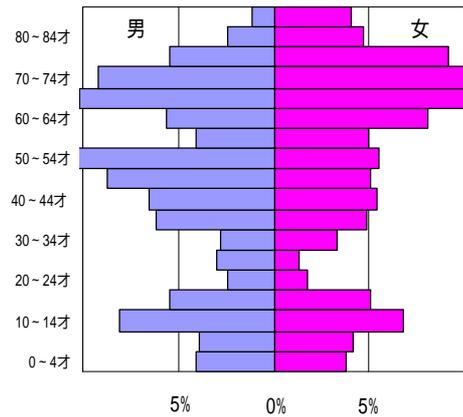


図 26 - 3 年齢(5歳階級)、男女別人口(生月町)

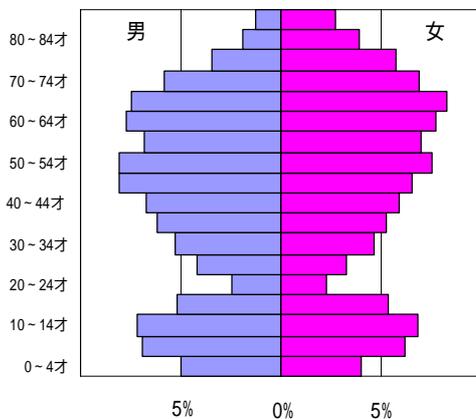
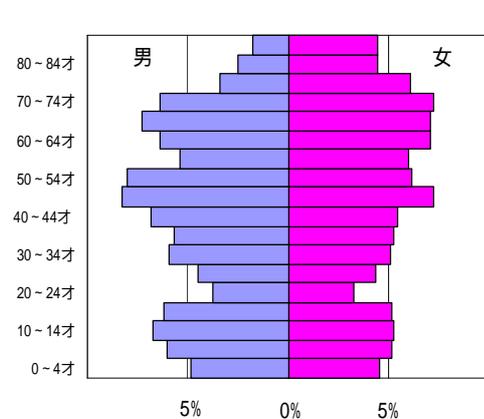
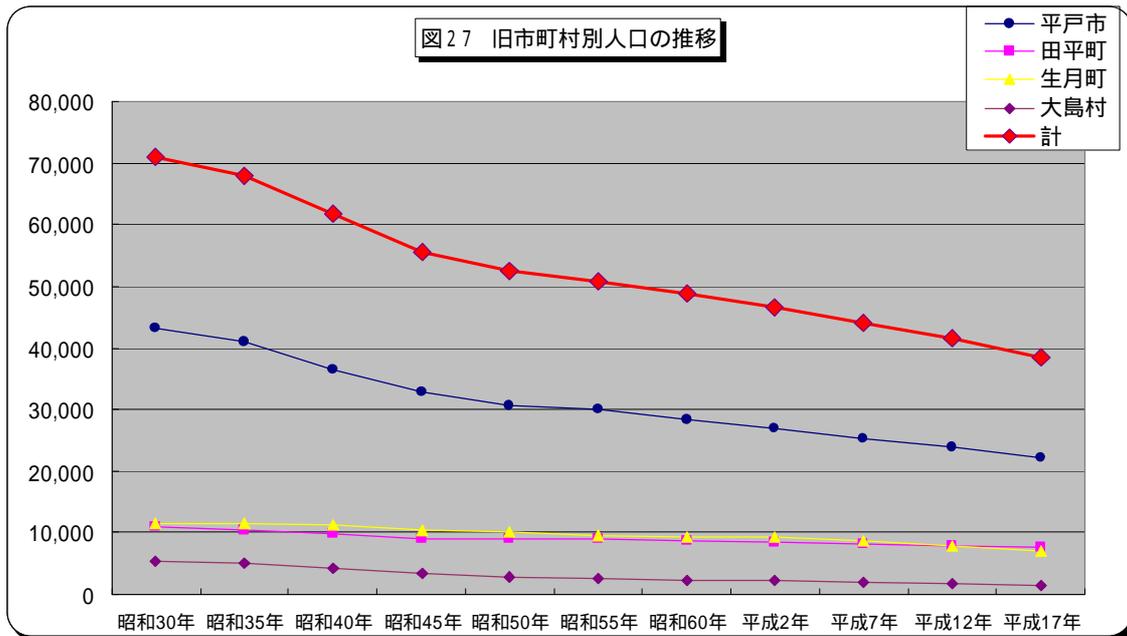


図 26 - 4 年齢(5歳階級)、男女別人口(田平町)



- ・各地区（旧市町村別）の人口の推移を見ると、平成 17 年国勢調査で総数 38,389 人となっており、その内平戸地区の人口が全体の 58.0%を占めている。
- ・各地区とも調査毎に人口の減少は著しいものがあるが、特に大島村の人口の減少は大きく、昭和 30 年から平成 17 年の人口減少率は、71.8%となっており、次いで平戸市の 48.6%、生月町の 38.9%、田平町の 30.3%となっている。



## 5 - 2 地区別の産業

- ・平戸地区の産業別人口割合は平戸市全体のグラフとほぼ同じで、第3次産業（58.6%）が最も高く、産業別には「サービス業」、「卸売・小売業」の割合が高い。
- ・大島地区の産業別人口割合は、第1次産業（46.1%）と第3次産業（46.6%）がほぼ同じ割合で、第2次産業（7.3%）が少なく、産業別には「農業」の割合が高い。
- ・生月地区の産業別人口割合は、第3次産業（57.0%）が最も高く、産業別には「サービス業」、「漁業」の割合が高い。
- ・田平地区の産業別人口割合は、第3次産業（62.7%）が最も高く、他地区と比べても一番高い割合である。また、第2次産業（21.7%）も他地区と比べ高い割合を占め、第1次産業（15.4%）が低い。産業別には「サービス業」、「卸売・小売業」の割合が高い。
- ・従業上の地位別割合でみると、どの地区も雇用者が多いが、大島地区は他地区に比べ自営業主と家族従業者の割合が高い。

